

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴	
露地野菜専業経営 Ⅲ	人 3	ばれいしょトンネル	a 30	1. 大規模農地での大規模栽培 2. 機械化 3. 無人ヘリ防除(外部委託) 4. アイマサリ(早掘り)・ニシユタカ(春普通)・さんじゅう丸の利用で、目標収量を早掘り3t/10a、春作3.4t/10a、秋作2.5t/10a以上を目指す	
		ばれいしょ早掘りマルチ	250		
ばれいしょ春作マルチ	250				
ばれいしょ秋作	250				
計	780				
		経営耕地面積	水田 100 畑(借地) 430 (280)		
経営目標		1 農業総収入	35,018 千円	4 1日当たり農業所得	10,080 円
		2 農業経営費	29,707 千円	5 1人当たり年間労働時間	1,405 時間
		3 農業所得	5,311 千円		

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所有割合	取得価格	耐用年数	年間償却額
建物・施設	作業及び収納舎	1	軽量鉄骨 60㎡	1	千円 3,240	年 24	千円 135
	農具舎	1	軽量鉄骨 30㎡	1	1,620	24	68
	ビニールハウス(浴光処理用)	1	AP単棟ハウス:100㎡(本体のみ)	1	379	8	24
	計				5,239		226
農機具	トラクター	1	30PS、140cm幅ロータリー装着	1	3,045	7	218
	管理機	1	6.2PS	1	200	7	14
	動力噴霧機	1	可搬式(5MPa)	1	213	7	15
	トラック	1	1.25tトラック	1	2,199	5	220
	運搬車	1	リフトダンプ(600kg・6.2PS)	1	608	7	43
	堆肥散布機	1	1100kg・乗トラけん引	1/3	273	7	19
	土壤消毒機	1	ティラーけん引・2条	1	99	7	7
	植付け機(ばれいしょ):施肥ホッパー付	1	歩行型:施肥ホッパー付	1	407	7	29
	マルチャー(ばれいしょ)	1	自走式・歩行型	1	190	7	14
	掘取機(ばれいしょ)	1	歩行型5PS	1	170	7	12
	茎葉処理機(ばれいしょ)	1	3.1~4.0PS	1	547	7	39
ピッカー(ばれいしょ)	1		1	3,520	7	251	
計				11,472		882	

3. 技術体系(ばれいしょトンネル栽培)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
種いも処理	種いも選別 種いも消毒 浴光育芽 種いも切断	11月～ 12月上	トラック	2	6	12	種いも量 280～300kg 殺菌剤 防除槽 ハウス コンテナ・トロ箱 包丁	・種いもは検査に合格したものを使用する。シストセンチュウ発生地域では、抵抗性品種の導入により蔓延防止に努める。 ・消毒は未萌芽のいもを切断せずに処理する。 ・浴光処理は種付前約30日間行い、処理中は床内が25℃を超えないようにし、途中3回程度いもを上下入れ替える。 ・種いも切断は植付数日前に、2～4つに縦切する(1片35g程度)。
耕耘・整地	耕耘・整地	10月～11月	堆肥散布機 トラクター	2	2	4	堆肥 500kg	堆肥の多用はそうか病多発を招くので注意する。
施肥・耕耘		11月	トラクター	2	1.5	3	10a当たり成分 N 16kg P ₂ O ₅ 16kg K ₂ O 14kg	強酸性圃場では石灰質資材を補給する。
植付		11月下～ 12月中	植付け機	2	1.5	3	種いも	栽植密度：畦幅60～65cm × 株間20～25cm、 10a当り6,600～7,600株
中耕・培土		12月～1月	管理機	1	1	1	鍬	軽く中耕し、15cm程度培度する。
マルチ		12月～1月	マルチャー	2	2	4	ポリマルチ 鍬	マルチ被覆は降雨後の土壌に湿りがある時に行う。
トンネル	トンネル被覆	12月～2月		3	8	24	トンネルビニール トンネル支柱 ハウスバンド バンド押え	トンネル被覆はマルチ後早めに行う。
芽出し	芽出し作業	1月～2月		2	4	8	芽出し棒	出芽が始まったら、1～2日おきに見廻り、芽が焼けないようにポリフィルムを破って芽出しをする。
温度管理	換気	3月～4月		1	17	17		日中25℃以上にならないように注意する。また、霜害にも留意する。
病虫害防除	薬剤散布	2月～3月	動力噴霧機 トラック	2	3	6	殺菌剤・殺虫剤 防除タンク	県病虫害防除基準に基づく適正防除。 ウイルス病、青枯病等の被害株は早期に抜き取り処分する。
収穫	トンネル除去 茎葉除去 マルチはぎ 収穫	3月中～ 3月下	茎葉処理機 掘取機 運搬車 トラック	2	8	16	鍬・鎌 コンテナ	いもの皮むけや傷をつけないよう丁寧に行う。
出荷調整	調整・箱詰め	4月		3	8	24	ダンボール	家庭選果・箱詰めし、出荷する。
出荷		4月	トラック	1	2	2		
後かたづけ	ほ場清掃	4月～5月	トラック	2	3	6	一輪車 コンテナ	茎葉、くずいもは病虫害の伝染源となるので片付け、処分する。
計						130		

3. 技術体系(ばれいしょ早掘りマルチ) p100 を参照

3. 技術体系(ばれいしょ春作マルチ) p101 を参照

3. 技術体系(ばれいしょ秋作栽培)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
種いも処理	種いも選別 種いも消毒 種いも切断	8月～ 9月上	トラック	2	4		種いも量 220kg/10a 8 殺菌剤 防除桶 包丁	・種いもは検査に合格したものを使用する。シストセンチュウ発生地域では、抵抗性品種の導入により蔓延防止に努める。 ・消毒は未萌芽のいもを切断せずに処理する。 ・種いも切断は植付数日前に、2～4つに縦切りし(1片35g程度)、陰干しする。
耕耘・整地	耕耘・整地	7月下～ 8月中	堆肥散布機 トラクター	2	2		4 堆肥 500kg	堆肥の多用はそうか病多発を招くので注意する。(土壌病害多発ほ場では計画的に土壌消毒を実施する。)
施肥・耕耘		8月～ 9月上	トラクター	2	1.5		3 10a当たり成分 N 14kg P ₂ O ₅ 14kg K ₂ O 12kg	強酸性圃場では石灰質資材を補給する。
植付	高地帯 平坦地帯	8月下～ 9月上 9月上～	植付け機	2	1.5		3 種いも	早植えは青枯病が多くなる。高温時の日中の植え付けは行わない。 栽植密度:60～65cm×25cm、10a当たり6,100～6,600株
中耕・培土		9月～10月	管理機	1	1		1	中耕は萌芽期に速やかに行う。 培土は茎葉、根を傷めないよう早めに行う。 20～30cm程度に十分培土する。
病虫害防除	薬剤防除	9月下～ 11月中	無人ヘリ トラック	2	4		8 殺菌剤・殺虫剤	県病虫害防除基準に基づく適正防除。 ウイルス病、青枯病等の被害株は早期に抜取り処分する。
収穫		11月中～ 12月下	茎葉処理機 掘取機 ピッカー 運搬車 トラック	2	2		4 コンテナ	いもの皮むけや傷をつけないよう丁寧に行う。
貯蔵 出荷		11月中～ 2月	トラック	2 1	4 2		8 2	暗所に貯蔵し緑化を防止する。 共同選果施設の利用
後かたづけ	ほ場清掃	12月～3月	トラック	2	3		6	茎葉、くずいもは病虫害の伝染源となるので片付け、処分する。
計							47	

